

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成24年度農作物病虫害発生予察情報について

平成24年度農作物病虫害発生予報第15号を発表したので送付します。

平成24年度農作物病虫害発生予報第15号

平成25年3月21日
徳島県

I. 果樹

果樹共通

果樹カメムシ類

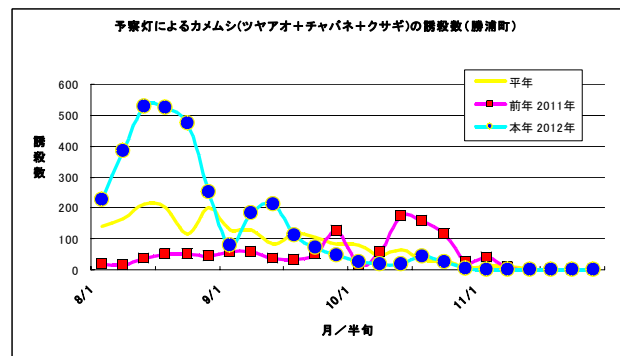
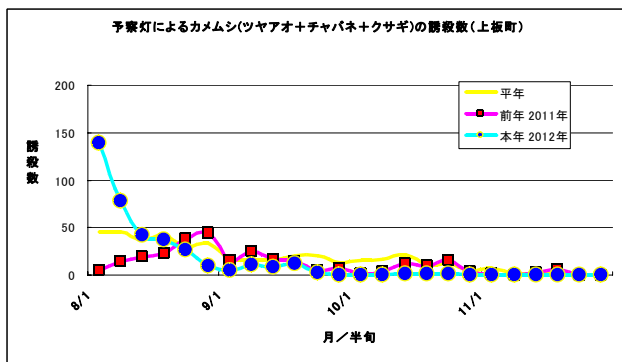
1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 上板町の予察灯誘殺数は昨年9月以降平年よりやや低めで推移したが, 勝浦町ではほぼ平年並で推移した。



(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2ヶ所調査)では, 5地点で越冬を確認, 越冬成虫は0.41頭/m²であった。昨年(11地点×2ヶ所の調査では3地点で越冬を確認, 越冬成虫数は0.5頭/m²)と比べて越冬密度はほぼ同程度であった。

(3) 3月15日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わるが, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並または多く, また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病度が0.2であり、ほぼ平年(4.4%, 0.1)並の発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行なう。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が30.6%、発病度が5.1)。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が23.1%、発病度が2.6)。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20～25℃の比較的低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウ

ス内の多湿化を防止する。

- (2) 肥料切れは病勢の進展を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が50.0%, 寄生葉率が11.2%であり、平年(30.3%, 3.8%)よりやや高めの発生である。オンシツコナジラミの発生圃場率が50.0%, 寄生葉率が11.2%であり、タバココナジラミ(16.7%, 0.2%)よりも高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が16.0%, 発病果率が1.1%)。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並～やや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が16.7%, 発病葉率が0.3%であり、平年(0%, 0%)よりやや高めの発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

- (2)罹病葉は早期に圃場外に持ち出し,病原菌密度の低下に努める。
- (3)薬剤感受性の低下を回避するため,同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では,発生圃場率が66.7%,発病葉率が 3.3%であり,ほぼ平年(63.3%, 13.4%)並の発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では,天気は数日の周期で変わるが,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く,降水量は平年並または多く,また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が25℃くらいで多湿の時に発生しやすいので,施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には,暖房機のファンを作動させて,ハウス内の多湿化を防止する。また,灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤が下葉の葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため,同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が16.7%,寄生葉率が 0.2%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので,薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので,同一系統の薬剤の連用は避ける。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い),発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では,発生圃場率が83.3%,寄生葉率が27.8%,被害果率が10.3%であり,平年(30.7%, 1.4%, 0.0%)より高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 花器,新葉,葉裏,葉の重なった部分などに集まる習性があるので,それらの部分に薬液が十分かかるよう,丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので,同一系統の薬剤の連用は避ける。

オンシツコナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が10.0%,寄生葉率が 0.6%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生量は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が100%、発病葉率が25.2%であり、平年(69.5%, 11.1%)よりやや高めの発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病果率が0.2%であり、ほぼ平年(7.8%, 0.9%)並の発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生量は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、発病葉率が25.2%であり、ほぼ平年(64.8%, 15.7%)並の発生である。一部では甚発生圃場が認められた。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行なう。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生葉率が0.2%であり、平年(2.5%, 0.03%)よりやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

オンシツコナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.7%、寄生葉率が0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生葉率が10.1%であり、平年(21.5%, 1.5%)よりやや高めの発生である。一部では甚発生圃場が認められた。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう、丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報の内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病度が0.1であり、ほぼ平年(6.8%, 0.2)並の発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 品種は、本病レース1～7に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 葉が繁茂すると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 春先の病勢の伸展を抑制するため、薬剤は予防的に用いる。
- (4) 薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので、速やかに処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では発生圃場率が83.3%、発生程度指数が3.0であり、ほぼ平年(62.1%, 4.1)並の発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では発生圃場率が14.3%、発病葉率が0.6%、発病果率が0%であり、平年(7.0%, 0.2%, 0.4%)並の発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

- (3)罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4)薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が7.1%,発病果率が0.1%であり、平年(11.6%, 0.5%)よりやや低めの発生である。
- (2) 3月15日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並または多く、また日照時間は平年並または少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い),発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が42.9%,寄生株率が6.3%であり、平年(13.3%, 1.9%)よりやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並),発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が78.6%,寄生葉率が13.1%であり、平年(47.1%, 7.1%)よりやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

III. その他

- 1) 1ヶ月気象予報では、天気は数日の周期で変わり、晴れの日が少ないが、気温は高く、降水量は平年並か多いと見込まれており、施設内外での温湿度の格差が大きくなるものと思われます。施設内の換気等の管理を適切に行なって下さい。
- 2) 水稻の育苗や甘藷の圃場準備等が始まり、農薬を使用する機会が多くなる時期です。農薬による危被害、事故等を防ぐためにも、使用時には周辺環境に配慮した上で取り扱うとともに、使用残農薬、廃液等は適

切に処分して下さい。水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。
3) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujosyo/>

○ 病虫害の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。